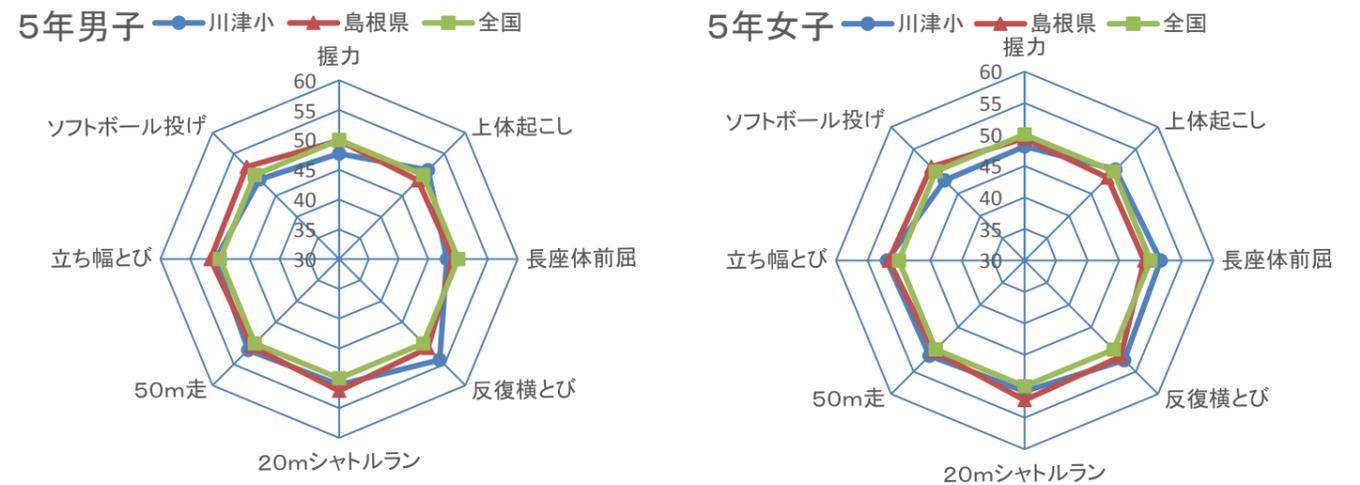


(1)児童の体力の現状

- 男女とも柔軟性は、ほぼ全学年が県平均を上回っている。
- 長座体前屈は、半数以上の学年が県平均を上回っている。
- 上体起こしは、女子のほぼ全学年が県平均を上回っている。
- 5年生は、「運動が好き」、「体育の授業が楽しい」の肯定的回答が体力上位校の数値を上回っている。
- 握力とソフトボール投げは、ほぼ全校で県平均を下回っている。(特に女子において顕著)
- 女子の持久力は、全学年を通じて県平均を下回っている。
- 5年生女子において、週の運動時間0分の割合が高い。(県4.7%のところ自校10.4%)

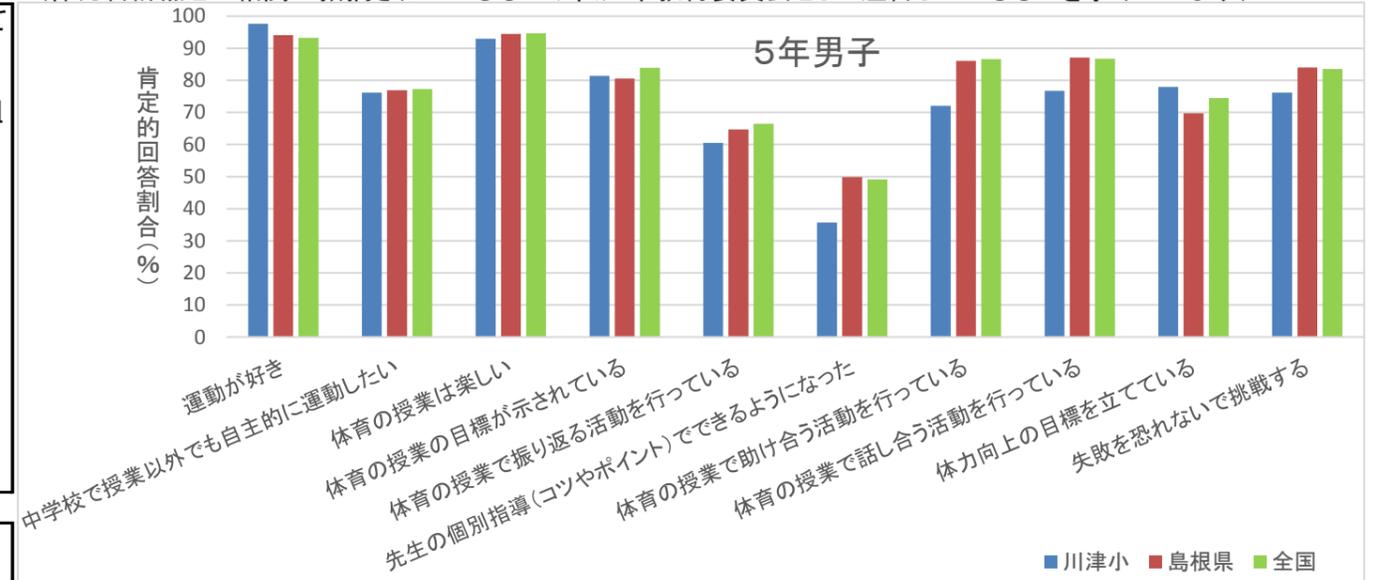
(4)5年生 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



(2)令和元年度の具体目標の達成状況と課題

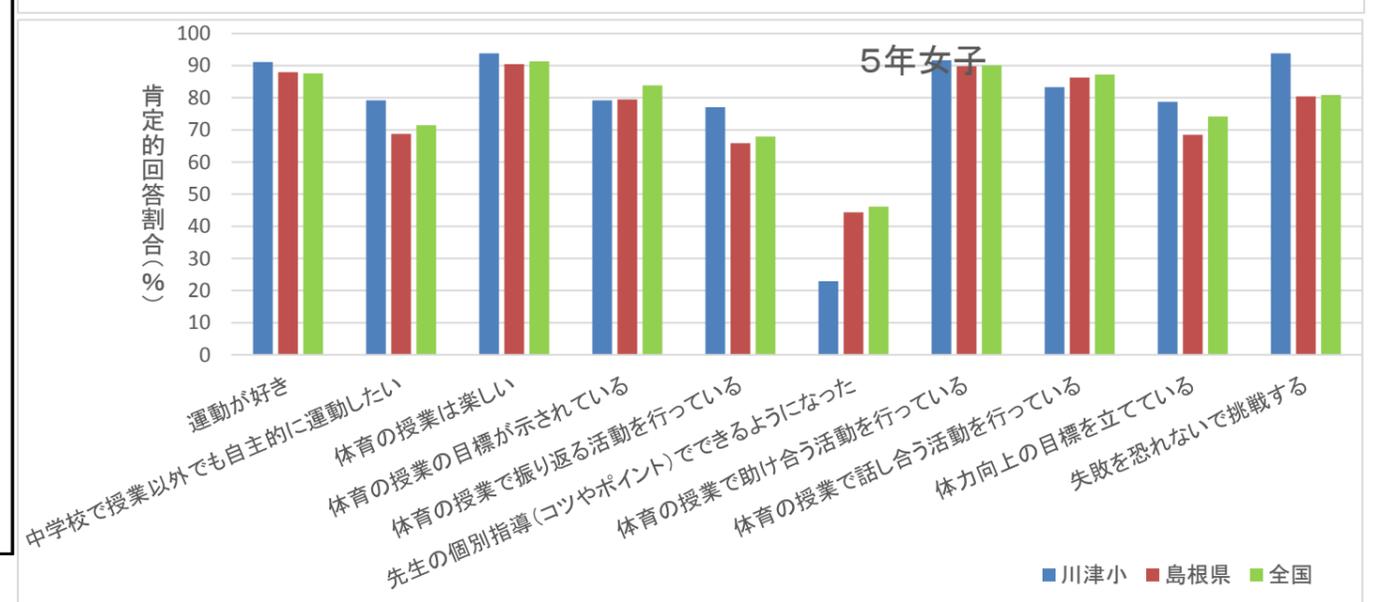
- 5年生意識調査において、運動が好きであるという児童が全国の体力上位校と並ぶ割合に増えた。めあてを示し、友達と助け合ったり、話し合ったりする取り組みの成果によると思われる。
- 柔軟、跳躍は、全学年の体育学習において5種目歩走や川津っ子ピクスなどの体作りに継続的に取り組んだことで向上が見られた。
- 投力については、全学年授業での実施機会が全般的に少ない。
- 握力については、年間を通じて継続して取り組むことが難しく、特に冬季の継続性に課題がある。

(5)全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査 5年生意識調査の結果 (体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(3)令和2年度の取組【対策】

- ①学校における取組
  - ・投力、握力を高める運動について、効果的な指導方法の研修機会を設ける。
  - ・体育の時間の準備運動に全学年体作りは継続し、投力、握力を高める運動機会を確保、継続させる。
  - ・各領域で身につけたい技能(逆上がり、壁倒立、開脚跳び、台上前転、二重跳びなど)を選び、全校で毎学期達成率を確かめながら継続した指導をし、運動への意欲と運動能力の向上を図る。
- ②地域や家庭との連携による取組
  - ・これまで同様、夏休みと冬休みに、家庭での体づくりとして「ジョギング」「なわとび」「ストレッチ」などに取り組む。その際、チャレンジシートや認定証を活用する。
  - ・地域のスポーツ少年団の活動に教員も関心を持ち、児童への励ましの言葉や応援でより意欲的に取り組めるようにする。
- ③体力向上をめざした生活習慣の確立、食育推進の取組
  - ・「食事」「運動」「睡眠」の三原則の大切さを各学年の発達段階に応じて指導し、家庭にも便りで啓発する。
  - ・年間指導計画をもとに、栄養教諭との連携協力を図って食育を進める。



調査実施者数(人) 1年(男子71・女子42) 2年(男子54・女子59) 3年(男子47・女子46)  
4年(男子56・女子51) 5年(男子41・女子46) 6年(男子52・女子37)